



## 2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年8月8日

上場会社名 ニチバン株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4218 URL <https://www.nichiban.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高津 敏明  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員コーポレートコミュニケーション部長 (氏名) 小林 祐子 TEL 03-6386-7190

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2026年3月期第1四半期の連結業績(2025年4月1日~2025年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	11,923	3.5	651	26.8	676	15.2	393	17.8
2025年3月期第1四半期	11,524	5.6	514	48.6	587	32.1	333	18.6

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期 284百万円(△19.3%) 2025年3月期第1四半期 352百万円( 6.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	19.31	19.30
2025年3月期第1四半期	16.40	16.39

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第1四半期	67,398	42,756	63.4
2025年3月期	67,603	43,187	63.9

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 42,756百万円 2025年3月期 43,187百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	35.00	35.00
2026年3月期	—	—	—	—	—
2026年3月期(予想)	—	0.00	—	40.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日~2026年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	25,400	6.9	1,300	10.7	1,400	14.1	900	11.1	44.21
通期	51,500	4.1	3,000	16.0	3,100	15.6	2,000	2.1	98.25

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無  
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有  
(注) 詳細は、添付資料P. 10「(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年3月期1Q	20,738,006株	2025年3月期	20,738,006株
② 期末自己株式数	2026年3月期1Q	380,530株	2025年3月期	380,530株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2026年3月期1Q	20,357,476株	2025年3月期1Q	20,351,549株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無  
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記予想は本資料の作成時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。上記の業績予想に関する事項は、添付資料P. 5「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況 .....	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書 .....	8
第1四半期連結累計期間 .....	8
四半期連結包括利益計算書 .....	9
第1四半期連結累計期間 .....	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	10
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(セグメント情報等の注記) .....	11
(収益認識関係) .....	12

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、訪日外国人数の伸びは見られるものの、インバウンド消費の高止まり感や物価高、長期化する地政学リスクや米国の関税政策など不安定な状況であり、当社グループを取り巻く事業環境についても予断を許さない状況が続きました。

このような状況のなか、快適な生活を支える価値を創出し続ける企業を目指し、イノベーション創出とグローバル貢献を果たすための事業構造の創造を進めるため、2024年度よりスタートした中期経営計画「CREATION 2026」を推進し、重点テーマである「事業ポートフォリオの再構築」「グローバル企業化」「人的資本経営」を実行し、『NICHIBAN GROUP 2030 VISION』実現に向けて取り組んでまいりました。

#### ①事業ポートフォリオの再構築

- ・テープ事業セグメントの抜本的収益改善
- ・成長事業と新領域へ経営資源を重点配分

#### ②グローバル企業化

- ・販売3拠点の成長追求
- ・2030年度グローバル比率30%実現に向けた機能拡充
- ・グループ全体のグローバル企業化の推進

#### ③人的資本経営

- ・ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの推進
- ・自己変革し成長する自律的人財の育成
- ・従業員の健康とエンゲージメントの向上
- ・新人事制度の導入

以上の取り組みを実施いたしました結果、

売上高は、グローバルフィールドの売上拡大等により、前年同期比3.5%増の119億2千3百万円となりました。

営業利益は、テープ事業セグメントの利益性改善により、前年同期比26.8%増の6億5千1百万円となりました。

経常利益は、主に営業利益の増加等により、前年同期比15.2%増の6億7千6百万円となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、営業利益の増加等により、前年同期比17.8%増の3億9千3百万円となりました。

当社グループのセグメントの概要は次のとおりです。

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、成長事業への経営資源の重点配分及び全社視点での事業戦略体制の見直しを目的に「事業戦略本部」を設置し、その傘下に、販路別に以下の営業統括部・本部を設置しております。

- ・顧客を機軸とした新たな営業推進体制の強化とブランド戦略の再構築のために、「コンシューマー営業統括本部」を設置し、ヘルスケア、EC、ステーションナリーの各営業担当管掌を管轄させております。
- ・より顧客に密着した営業活動を推進し、新規開発案件探索、顧客拡大のために、「医療材営業統括部」、「工業品営業統括部」を置いております。
- ・グローバル企業化実現に向けて、全社戦略との一貫性を高め、より積極的な事業活動を展開するために、「グローバル事業本部」を設置しております。

当社グループは、以上の営業担当掌に、各子会社を加えた事業フィールドとして、「ヘルスケアフィールド」、「ECフィールド」、「ステーションナリーフィールド」、「医療材フィールド」、「工業品フィールド」及び「グローバルフィールド」を設定しております。

経営資源の配分の決定及び業績の評価については、取り扱う製品、商品の性質や、市場、製造方法の類似性に基づき、「メディカル事業」、「テープ事業」の単位で行っていることから、当社グループの事業セグメントとしては、「メディカル事業」、「テープ事業」と認識し、これを報告セグメントとしております。

「メディカル事業」、「テープ事業」セグメントと各事業フィールドとの関係は以下の通りです。

事業フィールド		メディカル事業	テープ事業
国内	コンシューマー 営業統括本部	ヘルスケアフィールド	○
		ECフィールド	○
		ステーションナリーフィールド	○
	医療材フィールド		○
	工業品フィールド		○
海外	グローバルフィールド	○	○

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

#### メディカル事業

##### (ヘルスケアフィールド)

ドラッグストアを中心とした大衆薬市場におきましては、急激な酷暑により店頭への来客数が減少するなど販売環境は不安定な状況となりました。

このような状況のなか、高機能救急絆創膏「ケアリーヴ<sup>TM</sup>」シリーズについては、国内需要拡大に向けて認知度向上のためにテレビCMなどの広告媒体を活用したPR活動や製品サンプリングを積極的に展開しましたが、売上高は前年同期並みとなりました。鎮痛消炎剤「ロイヒ」シリーズについては、前連結会計年度の価格改定の影響とインバウンド消費の高止まり感もあり、売上高は前年同期を下回りました。

その結果、フィールド全体としての売上高は34億9千5百万円（前年同期比1.8%減）となりました。

##### (医療材フィールド)

医療機関向け医療材料市場におきましては、材料費や医薬品費の高騰、さらには働き方改革に起因する人件費高騰や病院の経営不振など、医療現場での販売環境は厳しい状況となりました。

このような状況のなか、高透湿性フィルムドレッシング「カテリープラス<sup>TM</sup>」シリーズについては、新製品「カテリープラス<sup>TM</sup>I.V.スリット小児用」が高い評価をいただくなど、医療安全を重視する医療機関からの新規採用が拡大し、売上高は前年同期を上回りました。また「くつつくバンデージ」については、ディスポーザブルの止血ベルトとしての利便性や感染対策品としての認知向上を背景に需要が伸張しており、売上高は前年同期を上回りました。

その結果、フィールド全体としての売上高は14億7百万円（前年同期比5.6%増）となりました。

##### (（メディカル事業に係る）ECフィールド)

EC市場におきましては、オンライン購買に対するWEBマーケティングの取組を強化してきたことにより、高機能救急絆創膏「ケアリーヴ<sup>TM</sup>」シリーズの売上高は、前年同期を上回りました。その一方、手術後の傷あとケアテープ「アフライン<sup>TM</sup>」の売上高は、前年同期を下回りました。

その結果、フィールド全体としての売上高は2億8千1百万円（前年同期比2.7%増）となりました。

##### (（メディカル事業に係る）グローバルフィールド)

グローバルにおけるメディカル事業については、重点地域であるアジア及び欧州において、高機能救急絆創膏「ケアリーヴ<sup>TM</sup>」シリーズや止血製品シリーズ「セサブリック<sup>TM</sup>」を中心に、販売代理店と協力して現地密着型の営

業活動を展開してまいりました。

高機能救急絆創膏「ケアリーヴ<sup>TM</sup>」シリーズについては、韓国で好調な売上を記録し、タイでの新規採用もあり売上高が前年同期を上回りました。また、韓国で販売開始した新製品「ロイヒつば膏<sup>TM</sup>コインプラスター」も売上高に貢献いたしました。

その結果、フィールド全体としての売上高は7億3千9百万円（前年同期比26.3%増）となりました。

以上の結果、メディカル事業全体の売上高は、59億2千3百万円（前年同期比3.0%増）となりました。また、売上高の増加により、セグメント利益は15億5千6百万円（前年同期比3.4%増）となりました。

#### テープ事業

（ステーションナリーフィールド）

文具事務用品市場におきましては、DX化などで紙の消費が大きく減少し、オフィス需要が低迷する中、オンライン購買拡大に伴う消費者の購買先の変化もあり、厳しい販売環境となりました。

このような状況のなか、主要製品である「セロテープ<sup>®</sup>」については、売上高は前年同期並みとなりました。両面テープ「ナスタック<sup>TM</sup>」については、オフィス需要の低迷と店頭からECサイトへ消費者の購買先に変化がみられましたが、売り場の拡大を図ったことにより、売上高は前年同期並みとなりました。

その結果、フィールド全体としての売上高は10億3千7百万円（前年同期比0.7%増）となりました。

（工業品フィールド）

産業用テープ市場におきましては、米国の関税施策などによる不透明感がみられ、依然として厳しい販売環境が続きました。

このような状況のなか、主要製品の「セロテープ<sup>®</sup>」については、天然素材を使用した環境配慮型製品であることを積極的に啓発し、多くの企業や自治体の賛同を得たこともあり売上高は前年同期を上回りました。また、建築土木用テープにつきましては、施工期間短縮用テープ「せこたん<sup>TM</sup>」シリーズを製品展示会へ出展するなどPR活動を実施したこともあり、売上高は前年同期を上回りました。

その結果、フィールド全体としての売上高は33億2百万円（前年同期比3.1%増）となりました。

（テープ事業に係る）ECフィールド）

EC市場におきましては、オンライン購買拡大に伴う消費者の購買先の変化に対応し、WEBマーケティングを強化するとともに、主力製品の「セロテープ<sup>®</sup>」と両面テープ「ナスタック<sup>TM</sup>」については、店頭からECサイトへ消費者の購買先の変化もあり、売上高は前年同期を上回りました。

その結果、フィールド全体としての売上高は10億1千8百万円（前年同期比5.7%増）となりました。

（テープ事業に係る）グローバルフィールド）

グローバルにおけるテープ事業については、アジアと欧州を重点地域として、製品戦略を展開してまいりました。「Panfix<sup>TM</sup>セルローステープ」については、販売代理店と協力して現地密着型の営業活動を展開し、前年同期を上回りました。和紙マスキングテープについては、欧州や中国市場に焦点を当て、販売チャネルの構築や製品育成に注力しましたが、欧州の市況が低迷した影響もあり売上高は前年同期を下回りました。

その結果、フィールド全体としての売上高は6億4千万円（前年同期比11.9%増）となりました。

以上の結果、テープ事業全体の売上高は59億9千9百万円（前年同期比4.0%増）となりました。また、2024年度よりスタートした中期経営計画「CREATION 2026」の中で掲げているテープ事業セグメントの抜本的収益改善を目的とした生産プロセス改善によるコスト削減効果等により、セグメント利益は2億4千9百万円（前年同期比44.5%増）となりました。

#### 調整額

報告セグメントに帰属しない一般管理費の計上等により、営業利益と報告セグメントの利益の合計額との調整額が△11億5千4百万円（前年同期は△11億6千3百万円）となりました。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ2億5百万円減少し、673億9千8百万円となりました。流動資産は4億8千万円の増加、固定資産は6億8千6百万円の減少となりました。

流動資産の増加は、前連結会計年度の第4四半期連結会計期間の生産高と比較して当第1四半期連結会計期間の生産高が増加したことにより、棚卸資産が8億2千1百万円増加したこと等によるものです。

固定資産の減少は、減価償却費が投資額を上回ったことにより有形固定資産が2億7千5百万円減少したこと、2026年6月に償還予定の債券を固定資産から流動資産に振り替えたこと等により投資その他の資産が4億6千5百万円減少したこと等によるものです。

負債は、前連結会計年度末と比べ2億2千5百万円増加し、246億4千1百万円となりました。流動負債は20億9千6百万円の増加、固定負債は18億7千万円の減少となりました。

これらは、主に2026年6月返済予定の借入金を固定負債から流動負債に振り替えたこと等によるものです。なお、前連結会計年度末に計上しておりました賞与引当金は、当第1四半期連結累計期間においては金額が確定したため、未払費用として流動負債のその他に計上されております。

純資産は前連結会計年度末と比べ4億3千万円減少し、427億5千6百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益3億9千3百万円の計上と配当金7億1千2百万円の支払い等により、利益剰余金が3億2千2百万円減少したこと等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の連結業績予想につきましては、2025年5月9日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。なお、上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	14,663	15,367
受取手形及び売掛金	8,962	8,185
電子記録債権	6,200	5,363
有価証券	—	393
商品及び製品	5,629	6,292
仕掛品	2,044	2,072
原材料及び貯蔵品	1,793	1,923
その他	465	642
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	39,756	40,237
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	10,041	9,852
機械装置及び運搬具（純額）	8,038	7,913
その他（純額）	2,862	2,900
有形固定資産合計	20,943	20,667
無形固定資産	648	703
投資その他の資産	6,254	5,789
固定資産合計	27,846	27,160
資産合計	67,603	67,398

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,516	4,597
電子記録債務	6,828	6,869
1年内返済予定の長期借入金	—	2,000
未払法人税等	705	349
賞与引当金	1,191	636
役員賞与引当金	55	13
資産除去債務	120	112
その他	3,622	4,556
流動負債合計	17,040	19,136
固定負債		
長期借入金	2,000	—
役員退職慰労引当金	27	27
株式給付引当金	18	22
退職給付に係る負債	1,771	1,825
長期預り保証金	2,995	2,958
資産除去債務	482	491
その他	80	179
固定負債合計	7,375	5,504
負債合計	24,415	24,641
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,451	5,451
資本剰余金	4,188	4,188
利益剰余金	32,480	32,158
自己株式	△642	△642
株主資本合計	41,477	41,155
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	395	394
為替換算調整勘定	203	134
退職給付に係る調整累計額	1,111	1,072
その他の包括利益累計額合計	1,709	1,601
純資産合計	43,187	42,756
負債純資産合計	67,603	67,398

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2025年4月1日 至2025年6月30日)
売上高	11,524	11,923
売上原価	8,024	8,272
売上総利益	3,500	3,651
販売費及び一般管理費	2,986	2,999
営業利益	514	651
営業外収益		
受取利息	4	3
受取配当金	15	16
為替差益	23	—
持分法による投資利益	43	25
その他	16	17
営業外収益合計	103	62
営業外費用		
支払利息	9	11
為替差損	—	6
固定資産除却損	0	4
固定資産撤去費用	11	9
その他	9	5
営業外費用合計	30	37
経常利益	587	676
特別損失		
減損損失	53	—
特別損失合計	53	—
税金等調整前四半期純利益	533	676
法人税等	199	283
四半期純利益	333	393
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	333	393

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
四半期純利益	333	393
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	20	△1
為替換算調整勘定	6	△18
退職給付に係る調整額	△14	△38
持分法適用会社に対する持分相当額	5	△49
その他の包括利益合計	18	△108
四半期包括利益	352	284
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	352	284
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	765百万円	698百万円

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

		報告セグメント			調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)	
		メディカル 事業 (百万円)	テープ 事業 (百万円)	合計 (百万円)			
売上高							
国内	コンシューマ 業統括本部	ヘルスケアフィールド	3,559	—	3,559	—	3,559
		ECフィールド	274	964	1,238	—	1,238
		ステーションナリーフィールド	—	1,030	1,030	—	1,030
		計	3,834	1,994	5,828	—	5,828
		医療材フィールド	1,332	—	1,332	—	1,332
		工業品フィールド	—	3,204	3,204	—	3,204
		計	5,166	5,199	10,366	—	10,366
海外	グローバルフィールド	585	572	1,158	—	1,158	
顧客との契約から生じる収益		5,752	5,771	11,524	—	11,524	
(1) 外部顧客への売上高		5,752	5,771	11,524	—	11,524	
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高		19	14	34	△34	—	
計		5,772	5,786	11,558	△34	11,524	
セグメント利益		1,505	172	1,677	△1,163	514	

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,163百万円には、セグメント間取引消去△34百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,129百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益の金額の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「メディカル事業」セグメントにおいて、建設仮勘定の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては53百万円であります。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

		報告セグメント			調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)	
		メディカル 事業 (百万円)	テープ 事業 (百万円)	合計 (百万円)			
売上高							
国内	コンシューマー 営業統括本部	ヘルスケアフィールド	3,495	—	3,495	—	3,495
		ECフィールド	281	1,018	1,300	—	1,300
		ステーションナリーフィールド	—	1,037	1,037	—	1,037
		計	3,777	2,055	5,832	—	5,832
		医療材フィールド	1,407	—	1,407	—	1,407
		工業品フィールド	—	3,302	3,302	—	3,302
		計	5,184	5,358	10,542	—	10,542
海外	グローバルフィールド	739	640	1,380	—	1,380	
顧客との契約から生じる収益		5,923	5,999	11,923	—	11,923	
(1) 外部顧客への売上高		5,923	5,999	11,923	—	11,923	
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高		22	17	40	△40	—	
計		5,946	6,017	11,964	△40	11,923	
セグメント利益		1,556	249	1,805	△1,154	651	

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,154百万円には、セグメント間取引消去△40百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,113百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益の金額の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## (収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等の注記)」に記載のとおりであります。